

2016年(H28年)
3月

ひとはつうしん

No. 294

(ホームページアドレス) <http://hitoha-fukushi.com>
(メールアドレス) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひとは福祉会

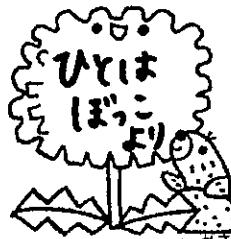
T 739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL (0826) 46-2960 FAX (0826) 46-7230

天候の不順も施設の経営にとっては、悩みの種です。低温と積雪で2日間休所とせざるをえませんでした。現在の法律では、報酬のすべてが日割り計算ですから、休所にした場合、その分だけ報酬はカットです。
日常業務は通常と進められているのに、です。本当におかしな、おかしい制度に悩まされています。

さて昨年は、ひとはが生まれてちょうど30年の節目を迎えました。実は意識して制作したのではなく、うまい具合に重なったというのが正直なところですが、支援をする側の職員が利用する側の人たちと向き合う時、常に心がけておきたいことを小冊子にまとめました。名付けて「ここえゆく」です。社会福祉の現場に身をおく者は、当然法律に則って日々の活動をするわけですが、人と人が向き合う時の矢口惠は私たちの日常にこそ潜んでいるように思います。そんな矢口恵を中心としたものです。幸いにも後援会の全面的な協力と職員などにより、編集委員会が、さららの人たちの揮絵も交えて、ひとはの文化らしく仕上げてくれました。おかげで、いろんな人から、「好評をいたしました」とお聞かれたことがあります。おられましたら、法人事務局、ひとは食館、さつき亭等にも置いています。また、ご連絡いただければ、送料込みで送らせてもらいたいです。

達たひとは文化にも触れてみてください。
(理事長 寺尾文尚)



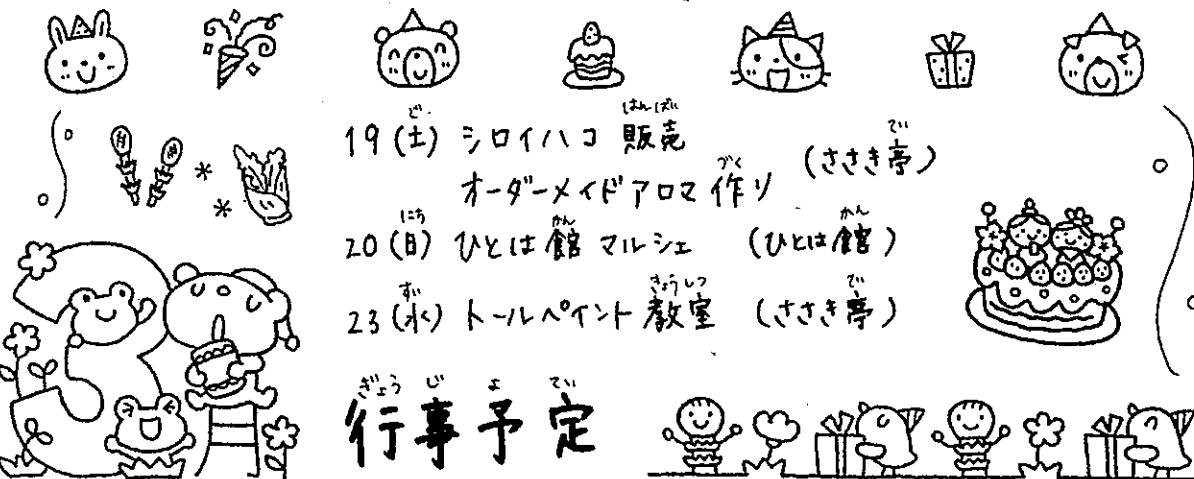
インフレエンザの猛威は、ひとはぼっこにもやできました。一週間ほどのお休みから復帰した1年生のRくんに「あー、Rくん元気だったか~。会いたかったよ。」と手をとり笑う5年生のMくん。

「Tちゃんが休みでさみしかったよ。」と言うと「ほんとに!さみしかった?」とにっこりほほえむTさん。

小学生の子どもたちの姿を確認し、気づかう様子とみせる高等部のKくん。もうすぐ今年度も終わりになろうとしている今、夏休み・冬休みや日々の放課後の活動を共にする中で、培われた仲間意識を感じる場面が見られるることは、私たちにとってとても嬉しいことです。

先週から、今年一年みんなで歌う歌を決めました。皆さんもよくご存じの連続テレビ小説「あさか来た」の主題歌即365日の続行であります。この歌が、1年生のKくんにドンピシャりはまったようで、「CDきこうか。」と言っては毎日耳しています。さあ、これから1年この歌で「ひとはぼっこ」ひとになることを期待しています。

(ひとはぼっこ 伊藤千代子)



行事予定

19(土) シロイハコ販売
オーダーメイドアロマ作り (ささき亭)
20(日) ひとは館マルシェ (ひとは館)
23(水) トートペイント教室 (ささき亭)



○ 1月に、ちょっとした長い休みをもらいました。その休みが終わりひとにはに出勤すると、玄関の方から「今日、田端くんおるんじゃ。田端君、田端君」と私を呼ぶ声が聞こえます。

○ Aさんは私の顔を見ると「長く休んだね。どうしたん?」と言つて、お配されていました。時にはAさんと言い合ひをする事もありますが、私が休んでいた間に、お配してくれたようとても嬉しかったし、元気が出ました。

○ 何気ないことでも仲間から元気をもらつているんだなと感じた1日でした。(ひとは作業所 田端直哉)

ひとはのO

○ 私がホームにいると「今日夜勤かん?」と毎回言ってくれる方がいます。

○ 夜勤じゃないんです...と言えると「今日は何なん?」と、私の勤務室のお配をしてくれます(笑)。夜勤の日は「今日お願ひします。」と笑顔で言ってくれます。

○ また、その方には、私が着ている服でお気に入りの服がありまして、鳥のアリントがしてある服を着ていくと「カーカー」と言います。カラスに見えます。

○ ようです...もう少し可愛い鳥だと良いのになあ~。(共同ホーム 高田和美)

○ 「あきたかわティータイムセット」できました

JA広島北部様より、三矢えびす茶と、川根ゆず様の「ゆずひーる」、あづみの「かりんとう(じょうか、えびす茶)」がセットになつた「あきたかわティータイムセット」の販売が開始されました。手土産やお祝い返し等にご利用ください(価格は ¥1,500+税です)

詳細は [あきたかわティータイムセット](#) で検索をされるか、ひとは福祉社会のホームページよりご覧ください。

ひとはから吹きこくる風 ~30年によせて~

ひとはの開所から数年後、陶芸を始めるなどに、ひとは時、牟馬のないSさんはひたすら手回しロクロを回し続け、毎日茶碗と格闘し思うように出来ない自分に腹を立てたり、あきらめかけたり。やと満足いく物が出来た時の本当に嬉しそうな笑顔を今も思ひ出します。ひな祭りの時期は、みんなで、胴体頭とそれそれが出来るところを担当、とにかく量産しました(結構人気だったのですから...)。手に麻疹が、頭にも真似するこの「ひーる」味のある暖かい人形を作り上げました。また、失敗した粘土を再生する為、粉にならまで槌でコロコロ叩いてくれた人。

ひとはは支えられてきたんだなとしみじみ思つたの

のです。

* * * (兼近洋子)

* * * (高田和美)

さつき亭は席数が多くなく、混雑時には相席をお願いすることがあります。そんな中で偶然の出会いを見つけました。

先日、相席を快く引き受けください、お互いが話しかけておられました。後でお話を聞いてみると、それが姉妹で来店されていたことが分かりました。

また、ある相席の場では、栗を使ったケーキが出ると「昔、栗を食べていてね」「そうなんですね。いろいろなことをされていたんですね。夫婦円満の秘訣は何ですか?」という会話が聞こえました。

「食べる事をきっかけに人と人とかかわる場所」にしたくて創っているさつき亭です。これから生まれるつながりを大切に活動(営業)していきたいと感じた1日でした。